

研究会開催報告

極微構造反応若手の会 第2回勉強会 「有機結晶の構造、物性、応用：極微制御への展望」

極微構造反応若手の会第2回勉強会が2006年7月28日(金)に東京工業大学大岡山キャンパス理学部会議室で開催された。本領域全体対象の勉強会としては、本年1月(仙台)に続く形であるが、規模やスタイルは3月に福岡で開催されたA01班の勉強会と同様、テーマを絞り込んだ比較的少人数の会を想定して企画が進められた。今回のテーマは有機結晶に関連するものとし、A04班の若手研究者を中心にどのような話題に関心があるか事前に意見交換した上で、プログラムを決定し、構造と物性、構造予測と計算、薄膜結晶と応用について、それぞれ第一線でご活躍の3名の先生方に講師をお願いした。

まず、北海道大学電子科学研究所の芥川智行先生に分子性導体の構造や物性の設計について歴史的な背景に始まり、ごく最近の研究成果まで含めながら講演を頂いた。続いて、産業技術総合研究所計算科学研究部門の三上益弘先生から結晶に関する理論・計算について、計算科学全体の概要、分子動力学を中心に最新の話や状況などを紹介頂いた。最後に、同じく産業技術総合研究所の光技術研究部門の八瀬清志先生から薄膜結晶を中心に有機エレクトロニクスの研究の最先端分野について解説頂いた。各分野の最先端のホットな成果に加えて現状が抱える問題点や今後の展開など、いずれも有機結晶の構造、物性、応用：極微制御への展望のテーマにぴったりの内容であった。今回の勉強会には、A04班の研究代表者・分担者を中心に、自称若手も含めた20名(大学院生4名を含む)が参加し、熱心に質問する姿がみられた。昼間の勉強会終了後、学外に場所を移してくつろいだ雰囲気での交流会を続け、話題の途絶えることのない充実した一日であった。領域メンバーの今後の研究展開に向けて大きなヒントになると同時に、有機結晶をキーワードとして固体材料に関わる様々な分野間での研究の相互連携が進むことを期待する。



最後になりましたが、今回ご講演頂いた芥川智行先生、三上益弘先生、八瀬清志先生、会場をお世話頂いた植草秀裕先生と藤井孝太郎君、企画の段階から勉強会の開催にご助力頂いた藤内謙光先生、中井英隆先生、小畠誠也先生、勉強会に参加して頂いた皆さんに深く感謝申し上げます。